

「うれしいを、いっしょに。」チャレンジ事業（1次募集）実施の総評

①アイデア力（今までにない新しい取り組みであるか）

これまでに市内でなかった異なる業種の事業者が協力して1つの事業を生み出したことは評価できる。嬉野の特産品、特色を生かし、新たな顧客を確保する、あるいは、協力店舗間の周遊を生み出すなどの工夫が見られた。2事業者での協力はしたものの、新規性・独創性が見えにくい場面もあった。

②実施体制・役割分担（実施団体内の連携、構成事業者の役割分担が明確化されているか）

連携する事業者を羅列するのみの団体も見られたが、団体内で中心となる事業者が明確にされているもの、あるいは、特に異業種の事業者の連携団体については、各事業者の役割が明確にされている事業を高く評価した。

③計画性（実施にむけた綿密な計画が練られているか）

事業実施期間内に確実に事業を達成できるかを図るため、「何を」「いつまでに」「どれくらい」といった具体的な内容を記載されている事業を評価した。ただし、抽象的で簡素な計画の事業もやや見受けられ、事業完了までの具体的なスケジュールが見通せないものもあった。

④内容の整合性（事業計画書に見合った収支予算書が記載されているか）

計画書に掲載された事業を実施するに当たり、必要な支出項目が収支予算書に分かり易く記載されているものを評価した。単に物品（備品や消耗品）の購入のみの支出になっている事業ではなく、広報や企画に係る費用等をバランスよく取り入れた事業をより高く評価した。

⑤波及効果（多くの人に喜んでいただけるような内容か）

本事業の目的が、自己の利益のみならず、嬉野市全域での経済の活性化であることから、事業計画書に「うれしのを盛り上げる」「お客様に喜んで頂く」といった取組の明記を義務付けていたが、どの取組もコロナ禍で低迷する観光商工業を盛り上げつつ、顧客にも満足してもらえる内容になるよう工夫はされていた。選考審査の際には、その中でも顧客ターゲットを明確にされている計画書が高評価を得ていた。

⑥継続性（本事業終了後も、継続的に実施ができるような内容になっているか）

これまでにない組み合わせでの事業を工夫を凝らしながら実施していただいた。どれも魅力ある事業であり、1回きりにしてしまうのは惜しいと感じるものも多かった。補助を受けて展開された本事業を自走・継続して実施できるような補助期間終了後の展望が明確なもの（継続性が計画書に記載されているもの）の評価は高かった。

⑦新しい生活様式の実践（予防ガイドラインにそったものであるか）

事業実施に当たり、新型コロナウイルス感染防止に配慮した内容になっているか（新型コロナウイルス感染防止対策取組み宣言店の規定を順守した形での事業計画になっているか）は、すべての事業について確認をおこなった。